



子どもたちの未来のために確実な財政運営を

行財政基盤を強化し市政のさらなる発展へ

新年度の予算を紹介

平成十五年度の各会計予算が、先月開かれた市議会の第一回定例会で可決されました。予算額は一般会計の千二十八億千三百三十八万円をはじめとし、総額二千百六十三億九百三十七万円に。ここでは、市政のさらなる発展を目指して盛り込まれた、新年度予算の主な施策や事業などを特集で紹介します。なお、金額の一万円未満は端数整理しました。

平成15年度各会計予算		はマイナス	
会計名	当初予算	伸び率	
一般会計	1028億1,338万円	4.1%	
特別会計	国民健康保険	211億7,967万円	6.8%
	老人保健	218億6,879万円	11.9%
	中央児童遊園	1億5,542万円	10.4%
	競輪	357億1,112万円	10.3%
	嶺公園	2億1,479万円	4.3%
	農業集落排水事業	5億7,978万円	17.1%
	介護保険	117億3,553万円	0.2%
計	914億4,510万円	6.0%	
企業会計	水道事業	97億5,880万円	6.8%
	下水道事業	122億9,209万円	1.7%
	計	220億5,089万円	4.0%
合計	2163億 937万円	4.9%	

市長説明のあらまし

市議会で萩原市長が説明した、平成十五年度予算の概要は次のとおりです。

スリムでも足腰の強い予算

わが国の経済における深刻な状況は本市でも例外ではなく、財政運営は、これまで以上に厳しい対応を迫られています。予算編成では、引き続き歳入に応じた歳出を組むという考え方で一般財源枠配分方式を継続

し、事務事業のさらなる見直しによって、予算の重点化と新規施策のための財源確保に心掛けました。

また、今後の市町村合併や地方制度改革などの動向を踏まえ、行財政基盤を強化することを念頭に予算編成に取り組みました。

こうした結果、一般会計予算は千二十八億千三百三十八万円で、対前年度マイナス四・一％。新最終処分場の建設、ダイオキシン類削減対策工事や総合福祉会館建設事業などの

大型事業について、予算上終了したことが大きな要因です。

時代の変化に対応し、市民生活に必要な新たな施策は積極的に推進するとともに、本市の将来的な発展、地域の活性化、さらには多くの市民が望む施策に対して、重点的に予算を配分。また、民間に委ねられるものは民間へと、行政サービスとコストの関係を厳しく精査しました。さらに、健全財政のため借入金 の縮減を図り、スリムながらも足腰の強い予算になったものと思います。もちろん、予算計上された経費も

執行段階で十分精査し、常に費用対効果を考え、貴重な財源が十分効果を発揮できるよう、一層厳しく行財政運営を進めます。

二十一世紀の新たなまちづくりに向け、いよいよ本年度は法定の協議を経て、市町村合併への道筋を確固としたものにしてはなりません。近い将来の中核市実現と一層の飛躍に向け、その礎を築いていきます。「市民と歩み、市民と創る、開かれた市政」のもと、予算に掲げた事業を着実に進め、さらなる市民福祉の向上と市政の発展を推進します。